

普及情報



お互いを知り合う時間：
「国勢調査」



アクティビティ：「つながり発見！生息地」



ふりかえり・わかちあいの時間

◆「やまのこ」専任指導員研修が行われました

4月23日に、「やまのこ専任指導員研修」が森林センターで開催されました。この研修は、森林環境学習「やまのこ」事業において県内小学校4年生が訪れる森林体験交流施設で、子どもたちに直接指導していただく専任指導員の方を対象に、年4回程度実施しています。森林センターで行われるこの研修よりも先駆けてこの研修が行われるのには理由があります。4月末から晩秋の11月末頃まで、県内8箇所の森林体験交流施設では、多くの子どもたちが訪れ、専任指導員さんたちは忙しい季節を迎えます。そこで最初の研修は4月のうちに行っています。

さて、今回の研修では「森を取り巻く関係性（つながり）」をテーマに、室内でのアクティビティ（活動）を通して、以下のようなことをねらいに行いました。

- 「森林・人・生きもの・その他環境」同士のつながりを見つける。
- アクティビティの発展性・拡張性に気づく。
- 施設間同士のつながり(交流)を築く。

まず、参加した専任指導員さん同士、講師を務めた私と専任指導員さんとの間で、円滑に情報交換や交流ができるように、お互いを共有する時間を持ちました。その後それとなく(!)、アクティビティに移りました。アクティビティでは、「つながり発見！生息地」「それぞれの木に必要なもの」「生きもの同士のつながり」といったパッケージド・プログラムと呼ばれる、マニュアル化されたプログラムを体験してもらいました。そこでは、それぞれのプログラムはあくまでも手段であり、ねらいを確認することが重要であることを呼びかけるとともに、伝えたいことへの応用や発展ができないかを考えるきっかけにしてもらいました。

最後に「ふりかえり」の時間を取りました。どうしても対応人数が多いとやりっ放しになりがちですが、「ふりかえり」をすることの意味を見つめてもらい、それぞれの現場に帰っても「ふりかえり」をしてもらえるよう提案しました。今回の研修がきっかけとなって、各森林体験交流施設において視点が変わり、アプローチ方法が増え、さらに森林体験交流施設同士で直接情報交換が活発に行われることを願っています。（西村）

普及情報

◆平成20年度森林センター普及指導事業の概要について

滋賀県森林センターには、3名の林業改良指導員が在籍しており、主に「森林環境学習の推進」「森林・林業に関する技術指導、情報発信」「森林病虫害の防除」を実施しています。今回はこれらの普及指導事業について、平成20年度の事業概要を紹介します。

《森林環境学習の推進》

滋賀県森林づくり基本計画の施策の1つである「次代の森林を支える人づくりの推進」の実現に向けて森林センターでは次の事業を行っています。

○森林環境学習施設専任指導員研修

- ・やまのこ事業受け入れ施設専任指導員研修：3回（4月～12月）
- ・森づくり県民講座の開催（6月～12月）
 - 【上級編】森づくり活動体験者を対象とした実践講座（リーダー養成）：4回
 - 【入門編】森に親しみ森林や環境に関心を持ってもらう：1回
 - 【親子編】親と子が自然の中で森林や樹木に関心を持ってもらう：1回

○県総合教育センターと連携した森林環境教育の教員研修

- ・採用2年目教員対象：5回（11月）
- ・やまのこ事業小学校教員対象：5回（8月）

○県環境学習支援センターとの連携

- ・森林環境学習プログラムの相談提供

○農政水産部との連携

- ・農業大学校生の林業体験実習

《森林・林業に関する技術指導、情報発信》

○森林センター林業技術研修：4回 ※第1回の予定は4ページに掲載

○森林センターだよりの発行：3回

○市町林業担当職員対象の森林・林業研修：1回（5月）

- ・林業施策の概要、森林づくり補助制度、保安林・林地開発制度など

《森林病虫害の防除》

○滋賀県森林病虫害防除センター機器の貸出

- ・自走式チップパー、動力噴霧器、4トントラックなどの貸出

○松くい虫の発生予察

- ・松くい虫防除の適期を把握するため、発生予察調査を場内で行っています。

○森林病虫害相談

- ・森林病虫害相談を行っています。また、森林病虫害の被害発生について、国試験研究機関と連絡調整を行っています。

《その他》

○森林、林業普及資機材の貸出（貸出については、防除センターの機器と同じく各地域の振興局・県事務所・林業事務所にお問い合わせください。）



やまのこ専任指導員(新任)研修



市町林業担当職員研修



自走式チップパー

試験研究情報

◆平成20年度林業試験研究課題の概要

森林センターが今年度実施する林業試験研究課題の概要は次のとおりです。

区分	研究課題名	概要	担当
国補	(造林)新規 高性能林業機械を活用した 低コスト作業システムの確立 (H20～H21)	間伐促進のために、平成18年度に本県で初めて高性能林業機械が導入された。今後、伐採現場における機械の稼働状況を調査し、本県の地形条件等にマッチした機械の組み合わせや現場作業の効率化、低コスト化を検討のうえ、高性能林業機械を活用した低コスト作業システムをまとめる。	吉川
	(造林) 環境に配慮した長伐期施業林および複層林の調査検討 (H19～H20)	人工林について、自然環境に配慮した施業として長伐期施業林および複層林が考えられるが、到達目標とする森林の姿についての具体的なモデルを示せていない。このため、組織的な普及を図る上からモデル林を設定し、併せて施業体系も調査検討する。	太田
受託	(機能保全) 森林吸収源計測事業 (H15～H22)	森林の炭素吸収量算出に必要な森林関連データについて、国際的に認知されうるレベルでの効率的かつ確実性の高い収集方法を開発し、これに沿って森林の炭素吸収量を計測する。	小島
	(機能保全)新規 里山再生に向けた特用林産物生産技術の検討 (H20～H23)	県内の里山の多くを占めるマツ林やナラ林では、松くい虫やナラ枯れによる森林の荒廃が進み、森林の多面的機能の低下が危惧されている。このため、各種整備が進められているが、残されたマツ林やナラ林そのものの健全化を図る必要があり、これまで獲得してきた特用林産物の生産技術をより進め活用する方法を検討することにより里山の再生を図る。	太田
単県	(育種) ウツクシマツ遺伝子保存に関する研究 (H18～H23)	湖南省に自生する天然記念物のウツクシマツが、松くい虫被害により減少してきているため、遺伝形態の解明に取り組んできたが、12年度で見通しがついたことから、引き続き松くい虫抵抗性ウツクシマツを作出する。	太田
新税対応	(機能保全) 森林づくりが琵琶湖に与える影響調査 (H18～H20)	琵琶湖流域の森林が、琵琶湖に対しどのような水源かん養機能を有しているか科学的根拠に基づき、定量的に明らかにする。 また、琵琶湖流域の森林に対し、主伐、間伐、里山整備などの森林施業を実施することにより、水源かん養機能がどのように変化するか科学的に予測できるシステムを構築し、いろいろな森林施業を想定したシミュレーションを実施し、琵琶湖の水環境の面から森林施業を科学的に評価する。	小島
	(造林) 環境林植生経年調査 (H18～H21)	人工林を強度間伐により針広混交林へ誘導するために行われる環境林整備は、本県では新しい取り組みである。このため、強度間伐実施後の育林木や侵入植生などの生態系の動態調査を実施し、望ましい環境林整備を提言する。	吉川

研修会のお知らせ

森づくり県民講座「親子編」

日程:平成20年(2008)年8月24日(日)

9:30~16:00

場所:森林センター周辺

対象:小学4~6年生とその保護者

内容:「森の探検・森の恵み」「木工等」

定員:30人



森づくり県民講座「入門編」

日程:平成20年(2008)年10月12日(日)

9:30~16:00

場所:森林センター周辺

対象:これから森づくりをしてみたい人

内容:「森の知識と森との安全なふれあい方」など

定員:30人

森林センター林業技術研修(第1回)

日程:平成20年(2008)年7月15日(火)13:30~15:30

場所:森林センター大会議室

内容:「里山保全:その問題点と今後の課題」

講師:(独)森林総合研究所関西支所

森林生態研究グループ 大住 克博さん



編集・発行 滋賀県森林センター

〒520-2321 滋賀県野洲市北桜978-95

TEL 077-587-2655 FAX 077-587-6527

ホームページ <http://www.pref.shiga.jp/d/shinrin-c/>

Eメール dj36@pref.shiga.lg.jp (担当:西村) 2008年7月発行

